

全酪連会報 12

2023 DEC No.699

若手後継者の本音／荒井芳幸さん

監査室だより／経営に役立つ内部監査を目指そう

全酪アカデミー卒業生 2組目が福島で就農スタート

酪農業に対する理解醸成活動報告

日本酪農見て歩紀／

株式会社高橋牧場(北海道中標津町)

酪農トピックス／全国農協乳業協会

「マーケティング研修」を開催しました(酪農部)ほか



Z
E
N
R
A
K
K
U
R
E
N

LINE公式
アカウント
ができました!
登録をお願いします!



酪農青年女性会議
@642bpcwk



全国酪農業協同組合連合会

概要

今回は、栃木県高根沢町の荒井牧場をご紹介します。

高根沢町は栃木県のほぼ中央に位置し、東側は八溝山系の丘陵が南北に連なり、中央は広大な水田地帯が広がり、西南端は皇室や賓客接待用の牛乳・乳製品、肉、卵などの生産を行う「御料牧場」が立地しています。

荒井牧場が所属する酪農とちぎ農業協同組合（臼井勉代表理事組合長）は、生乳出荷戸数321戸、年間生乳生産量257,117t（令和4年7月時点実績）となっています。

牧場紹介

荒井牧場は、タイストール牛舎で経産牛約30頭を飼養しています。労働力はご両親と荒井さんご夫婦の4人で、ご両親は主に搾乳・環境整備、芳幸さんは搾乳・給餌・自給粗飼料栽培、奥さんは自給粗飼料収穫補助を担当されています。



▲ 齊藤先生と荒井さんとで打合せの様子

今回は、栃木県高根沢町 荒井牧場の後継者 荒井 芳幸さんにお話を伺いました。

飼料給与方法は自動ロボット配合飼料給餌機と自家PMRと自給粗飼料を給与しています。特徴的なPMRで、内容はもみサイレーシ（SGS）、稻ホールクroppサイレーシ（WCS）（微細断）、デントコーンサイレーシ、ライ麦サイレーシで国産飼料のみです。

後継するきっかけ

「幼少期は父親が酪農をしていましたが、そこまで興味を持てず県内の工業高校に進学し、卒業、地元の自動車整備会社に就職しました。しかし、30歳になる時に牧場を継ぐはずだった兄が継ぐのをやめたのでせつかく父親が始めた牧場だから守りたい！と思ったので就農しました。就農して1年ぐらいはヘルパーとして様々な牧場で仕事をし、勉強しました。それから実家の牧場に入り、去年の10月に継承しました。早いものでもう10年経ったんですね。」

目標

「国産粗飼料100%、高根沢町でしかできない酪農を実現することが目標です。そのため去年の秋からWCSを増量して国産飼料割合を増やしています。周りを見てください（牧場の周り）、この水田、利用しない手は無いと思います。国際情勢、為替が不安定だと輸入粗飼料で経営が左右されやすくなります。実際

に去年から輸入乾草が暴騰し、困っている酪農家さんもたくさんいると聞いています。しかし高根沢町には広大な水田があり、耕種農家と連携すれば国産粗飼料100%が実現できると思っています。今年の秋にはさらにWCSの量を増やして挑戦しようと思っています。」

大切にしている事

「高根沢町全体を盛り上げることと持続可能な酪農をすることです。高根沢町は広大な水田があって、近くには地元の食材にこだわられるレストランがあります。そのレストランには野菜も卸しているし、最近では自分の牧場の肉も提供しています。自分の牧場で世話をした搾乳牛が最後は地元の方々に食べてもらえるのって感動しました。そのレストランに家族で食事に行つて自分の牧場の牛を息子が食べて『お父さんすごいね』って言われると、搾乳牛の廃用についても今後は最後まで責任を持ちたい、高根沢町全体を少しでも盛り上げることもできるのではないかと思います。後、持続可能な酪農については堆肥処理を耕種農家と連携したり、環境配慮でカシユナーッツを添加剤に入れたりしています。」

組合職員、齊藤先生の協力

「就農して10年、今後の方向性で悩んだ時は組合職員、齊藤先生に相談しています。今は組

若手後継者の

本音

Vol.66



▲ 荒井牧場外観



▲ 荒井牧場の牛舎の様子



▲ 荒井牧場の牛を提供しているレストラン



▲ 荒井牧場の牛を使った料理

[経営概況]

所 属 酪農とちぎ農業協同組合(臼井勉代表理事組合長)
家族構成 荒井芳幸さん、両親、奥様、お子様2人
飼養頭数 経産牛 約30頭

持続可能な酪農で 地元を盛り上げたい

最後に

合職員の坂本さんと飼料メニューについて意見を出し合い国産粗飼料100%に向けて日々試行錯誤しています。齊藤先生は月に一度牛舎に来てくれてボディコンディションや糞スコア、乾乳管理、繁殖管理についてアドバイスをしてくれます。たくさんの方に支えられながら酪農が出来ていることに感謝しています。」

「ご多忙の中、快く取材を引き受けて頂いた荒井さんに感謝申し上げます。いつも巡回時に感じている荒井さんの酪農に対する熱意と高根沢町を盛り上げたいという気持ちをより一層感じる取材になりました。
荒井牧場のますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。」



全国の若手後継者の皆さんへの一言!



厳しい状況ですが、地域ごとの酪農にあったスタイルで、消費者それぞれの近くの地元の人が「酪農家はすごいな」と思われるよう

な酪農業界を作っていきましょう!!

経営に役立つ 内部監査を 目指そう



1 はじめに

組織における「内部統制」「リスクマネジメント」「ガバナンス」の重要性が高まるほど、この3つがしっかりと機能しているか確認をする「内部監査」の重要性も同様に高まります。

しかし、「内部監査」の実態を正確に掴んでいる人はそれほど多くないのではないのでしょうか。皆さんはどのようなイメージをお持ちですか？

人によっては「内部監査」を、文字通り組織内部の検査をすることだと考える人もいるかもしれません。しかし、これは内部監査の一部分にすぎません。

今回の監査室だよりでは、内部監査について、概要とすべき姿についてお伝えしていきたいと思えます。

内部監査業務に携わっている方も、内部監査を受ける方も、経営に役立つ一歩進んだ内部監査の実施に向けて参考になれば幸いです。

2 内部監査の概要

内部監査とは、「組織体の経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、独立した立場で、「ガバナンスプロセス」(注1)、「リスクマネジメント」

(注2) および「コントロール」(注3) に関連する経営諸活動の遂行状況を評価し、これに基づいて客観的意見を述べ、助言・勧告を行うアシュアランス(保証)業務、および特定の経営諸活動の支援を行うアドバイザリー(助言)業務である。」と定義されています。

この2つの業務の詳細は左記のとおりです。

① 監査対象となる業務・システム・情報を特定の物差し(規程等)に照らし合わせて、合致しているか、適切・適正に整備運用されているか、を確認する「**アシュアランス(保証)業務**」(準拠性監査)

② 特定の物差しそのもの(規程等)の妥当性について意見を述べることや、物差しを超えて、業務・システム・情報の望ましい姿について助言提案等を行う「**アドバイザリー(助言)業務**」(助言型監査)

多くの組織の内部監査業務において、①の「アシュアランス(保証)業務」(準拠性監査)には注力していますが、②の「アドバイザリー(助言)業務」(助言型監査)は、十分取り組んでいないのが現状です。経営陣が任意である内部監査に一定の経営資源をかけているのは、内部監査が経営に資する(資して欲しい)と考えているためでもあります。

内部監査のレベルを向上させて経営に役立てるためにも「アドバイザリー(助言)業務」にも取り組むたいところですが。



3 内部監査のレベル向上

内部監査レベルを向上させていくためには、自組織の現在の内部監査の成熟度を踏まえた上で行う必要があります。

第一段階は、やはり多くの組織でも注力している、不正・誤謬の予防・発見を行う①アシュアランス（保証）業務（準拠性監査）をしっかりとこなすことです。

組織の社会的価値を長期的に高めていく上で、不正を未然に防ぐ体制整備は、組織の継続発展のためには、必要不可欠です。「重箱の隅」をつつくのではなく、リスクの大きさとの兼ね合いで検証することが大事です。

第二段階として、業務の改善・変革に資する改善提案型の②アドバイザリー（助言）業務（助言型監査）への取り組みです。具体策や結論を述べるのではなく、どこに改善の余地があるのかを助言します。業務・システム・情報を網羅的に把握しておく必要があるのかを助言します。業務・システムが不十分なレベルでは、アドバイザリー（助言）業務を行うのは困難

（注1）ガバナンスプロセス

理事会等が、承認された決議事項等を代表理事や業務執行理事に適切に実行するよう指示し、代表理事や業務執行理事から進捗状況について報告を受けると同時に、役職員の業務執行状況をモニタリングする一連の仕組み

（注2）リスクマネジメント

代表理事らが、組織を持続的に経営するために障壁となるリスク及びそのリスクが及ぼす影響を事前に正確に把握し、対策を講じることによって、危機発生を回避するとともに、危機が発生した場合の損失を極小化するための管理手法

（注3）コントロール

経営管理者、理事会及びその他の当事者が、リスクを取って戦略を実施すると決定した場合、そのリスクが組織にとって受容可能な水準に収まっているように行われる全ての活動

です。

①アシュアランス（保証）業務が十分できる内部監査レベルになったら、②アドバイザリー（助言）業務に取り組みましょう。

4 経営に役立つ内部監査人とは

経営に役立つ内部監査とするには内部監査人の在り方も問われます。

従来、内部監査といえば、経験が豊富なベテランの属人的な業務というイメージでした。

しかし、組織の経営上、内部統制やリスクマネジメントの整備・運用がより重視されるようになった現在においては、内部統制やリスクマネジメントに関する知識を、内部監査と関連付けて体系的に理解することが必要不可欠となっております。

更に、業務・システム・情報の望ましい姿について助言、提案等を行っていくためには、積極的に新たな知識を吸収しようとする「意欲」が必要です。

そしてこのことを、内部監査人一人一人が自覚し、組織としてそのような内部監査人を育成することが何より求められています。

5 おわりに

多くの組織において、内部監査の人員体制（専任監査担当者）は小規模であると思います。

そのような中、効果的・効率的な内部監査を実施していくためには、「監査毎に他部署に所属する職員を選任して監査チームを編成する」など、組織規模に合わせた工夫も重要になります。

本会監査室も、経営に役立つ内部監査の実施に向けて、会員の皆様とともに、一步一步確実に進んでいきたいと考えております。些細なことでも結構ですので、何かお悩みがあれば是非ご相談ください。



全酪アカデミー卒業生

2組目が福島で 就農スタート

酪農就農を志す担い手を育成し就農に結び付けることを目的としている一般社団法人全酪アカデミー（理事長・北池隆全酪連代表理事専務）で研修を受けていた高橋帆乃佳さん、高橋純真さんご夫妻は、令和5年11月、福島県塙町にて就農しました。

畜産系大学で出会った2人は、酪農実習を重ねるうちに『酪農はとても面白く、職業としてすごく魅力的』と感じるようになり、将来は酪農家になろうと夢を語り合い、卒業後、帆乃佳さんは全酪連に入会し、購買推進担当として飼養管理などを勉強し、担当地域の多くの酪農家と接しながら将来の構想を作り上げていきました。一方、純真さんは埼玉県の削蹄師に師事し、ヘルパーもやりながら数多くの酪農家に出向き、それぞれの得意分野を磨き上げてきました。

全酪アカデミーの設立の話を聞いた2人は、純真さんが一足早くアカデミーの研修生となり、福島県にある全酪連酪農技術研究所やミネロファーム（福島県郡山市）で研修を重ねました。帆乃佳さんは全酪連での推進担当業務を継続したのちに、今年の春からアカデミーの研修生となり、2人揃って飼養管理や搾乳、人工授精、その他ほ場にかかわる作業全般などの実践研修を行い、また、全酪連の技術顧問や担当役員が講師を務める座学研修も受講しながら、知識の習得を重ねてきました。

研修を進めながら、賛助会員から届いたいくつかの就農候補地の農場から、全酪アカデミー事務局とともに視察訪問し継承に関する協議を重ね、最終的に福島県内に就農先を絞り、地元福島県酪農協（紺野宏代表理事組合長）の多大なる協力をいただきながら、塙町の佐藤勝牧場を継承することとなりました。



▲ 佐藤ご夫妻をばさんで

継承した佐藤牧場で、全酪アカデミーから記念プレートの授与が行われました。新たな牧場名は『らっきーべこファーム』。帆乃佳さんは『夢であった酪農家になる道のりは決して楽ではありませんでしたが、ここまでこられたのは、アカデミーや地元福島県酪農協の役員の方々の協力があってこそ。何しろ、佐藤さんご夫妻が自分の息子、娘のように私たちを迎え入れてくださったから。とても幸運でラッキーでした。』と名理由を明かしてくれました。



▲ らっきーべこファーム全景

全酪アカデミーに対して純真さんは『全国から就農候補を選べるというのはとてもありがたいことと思って。狭い視野にならずに広い考え方ができると思いました。』と語り、帆乃佳さんは『アカデミーは社員として給料をもらいながら研修を受けられます。給料がいただけないという研修所もありました。せつかく自分たちが貯めた自己資金が底をついてしまつたら意味もありませんし。研修場であった酪農技術研は若齢預託牛も含めて頭数が多いので、いろんなケースが発生して、こういう対応したほうがいいとか、そういうことを学べました。』と語りました。

高橋夫妻が継承する佐藤牧場は、経産牛30頭、育成牛20頭を有し、約50反（借地含む）の自給飼料畑があります。帆乃佳さんは、『勝さんから引き継いだこの牧場は、本当に牛が

▼ 福島県酪協紺野組合長より新規就農支援金が授与されました



就農激励会の参加者



▲ 初日のバルクに大満足

ベストな状態のままでしたので、それを維持できるようにしていきたい。』と話し、『今回、こういった第三者に経営を委譲するというやり方が今後も多く出てきたらいいと思っています。誰もができる経営継承が続いていけばと。そんな夢を持ちながら頑張りたいと思っています。』と語りました。純真さんは『一刻も早くスキルアップして、より良いコンディションを維持できるようにしていきたいと思っています。私たちは自給飼料の知識が全く乏しいので、これからも勝さんに指導いただき学べていけたらと思っています。』と語りました。

た11月1日の朝は、『作業が集乳までに間に合うか、抗生物質投与の牛を搾らないかなど、いろいろ緊張しながら搾乳をしていました。バルクは一杯になり、初めて集乳車に吸い上げてもらった時はすごく感動しました。その時、福島県酪協の紺野組合長はじめ多くの職員の方々に見守っていただき祝福されて、とても嬉しかったですね。』と帆乃佳さん。勝さんは『高校卒業してから50年、一からの酪農でした。これまで苦労してこれだけの基礎を立ち上げて、それをこれで終わりとせずに後継者に継承できたということはすごく素晴らしいなと思っています。これをベースにまた続けてく

れる、それがやはり私達夫婦としてすごく幸せ、その一言ですね。』とお気持ちを語ってくれました。

場所を移して、福島県酪協主催で開催された就農激励会には、佐藤勝・文字ご夫妻はもちろん、福島県南農林事務所や埴町農業委員会、同町農林推進課の関係者に加え、高橋夫妻が所属する福島県酪協からは紺野代表理事組合長はじめ多くの役員と組合員が参集し、2人の門出を祝いました。

全酪アカデミーは、酪農就農を志す方々を研修生として最長3年間雇用します。研修生は給与を受けながら、就農支援プログラム(教育カリキュラム)に基づき全酪関連牧場や賛助会員組合員の契約農場(酪農家)での実践研修や、多岐にわたる分野の座学研修を受けることができます。北海道から沖縄まで全国38の賛助会員から提供される就農候補地の中から研修生が希望する地域とのマッチングをし、事業計画策定、事業継

承など賛助会員と連携し多面的にサポートします。

現在、2組4名が研修生として雇用されており、来年以降の就農を目指しています。高橋夫妻が継承した『らっきーべこファーム』の今後に期待するとともに、全酪アカデミーから数多くの新たな酪農家が巣立つことを本会もサポートしていきます。

●令和6年度研修生募集



一般社団法人 Zenraku Academy

全酪アカデミー

(一社) 全酪アカデミーでは、令和6年度の研修生を募集しています。

牧場で働きながら知識や技術を身に付けます。「入学金」や「授業料」などの学費は一切かかりません。現在会社にお勤めの方が退職後も安心して酪農就農を準備できる体制を整えています。

- ▶ 給与 月給 210,000 円～ (夫婦での採用の場合、月給 420,000 円～)
- ▶ 休日 4 週 4 休 (農場研修は月 23 日程度)
- ▶ 借上住宅
- ▶ 通勤手当
- ▶ 有給休暇
- ▶ 社会保険

詳しくは、ホームページでご確認ください。
▶ <https://z-academy.org/>



YouTube で動画を公開しています。
▶ https://youtu.be/Vmy_KocOF-g



酪農業に対する 理解醸成活動報告



酪農業に対する理解醸成活動は、一般消費者に対し、酪農が日本の国土保全、地域経済活性化に果たしている役割や、酪農を取り巻く情勢について、酪農家自らが消費者に説明することで、酪農への理解醸成を促進し、国産牛乳や乳製品消費定着化を図ることを目的に、国の補助事業である生乳生産者需要確保事業を活用して、2013年から継続して全国各地で行っている活動です。

牛乳・乳製品の値上がりもあり、一人でも多くの消費者に酪農をとりまく状況や価格改定の背景などを理解いただきたい！牛乳をたくさん飲んでいただきたい！という強い思いで本年は、より一層力を入れて活動を行っています。全国各地から報告が届いていますのでその活動をご紹介します。ご協力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

令和5年10月1日(日)、全国酪農青年女性会議と全酪連は
新宿駅西口広場イベントスペースで理解醸成活動を開催！

YouTubeでイベントの様態を公開！
是非ご覧ください！

→<https://www.youtube.com/watch?v=blCq6mExPkY>



- ちとせ消費者まつり(イベント主催者:千歳市・千歳消費者協会)
- 北ガス文化ホール(北海道千歳市)

開催日:令和5年10月14日(土)

参加者:北海道酪農青年女性会議

毎年開催されるちとせ消費者まつりに出展し、来場者にアンケートや酪農家へのメッセージ募集を実施。チラシにじっくり目を通す消費者もみられ、酪農家への温かいメッセージを頂くこともできた。消費者に牛乳乳製品の美味しさや酪農家のことを考えてもらう時間をつくれた。 ※全酪連会報11月号トピックスにも掲載



- いわみざわ農協 営農販売本部前(北海道岩見沢市)

開催日:令和5年10月17日(火)

参加者(主催者):いわみざわ農協青年部・北海道酪農青年女性会議

いわみざわ農協青年部によるイベントで、牛乳・チラシ・保冷バッグを配布し牛乳をのんでもらえるよう呼びかけを行った。当日は農産物直売会、こども食堂・緑日も開催され多くの来場があり酪農情勢について知っていただくよい機会となった。



札幌支所

- 復興マルシェ(東北みやぎ復興マラソン2023連動企画)
(イベント主催者:仙台放送・一般財団法人宮城陸上競技協会)

- 名取市民体育館特設会場(宮城県名取市)

開催日:令和5年11月5日(日)

参加者:東北酪農青年女性会議

東北酪農青年女性会議として復興マルシェに出展し、グッズ・チラ

シの配布を通じて牛乳消費拡大への協力を呼び掛けた。同時に東北産牛乳のPRとして東北各地で製造されている牛乳販売を実施。スポーツイベントとの連動企画のため、運動後の牛乳摂取を呼びかけ、準備していた商品約1,200個は完売し大盛況！購入者からは「普段あまり見ない牛乳を購入できた」「競技後で、ちょうど何か飲みたかったところで牛乳を販売していたのは嬉しい」と言った声をいただけた。



仙台支所

●おたまたまの祭り
(イベント主催者:大玉村観光・物産PR実行委員会)

●大玉村ふれあい広場(福島県大玉村)

開催日:令和5年10月15日(日)

参加者(主催者):福島県酪農青年研究連盟(大玉村畜産団体連絡協議会)



大玉村畜産団体連絡協議会として出店し牛乳・乳製品の販売を行いながら、チラシや保冷バッグを利用し酪農に対する理解醸成を行った。イベント当日は、朝から雨が降り足元も悪く寒かったですが、地域の酪農家、乳業メーカーと協力しながら開催し地域の結束を深めることもできた。



●福島県西郷村立川谷小・中学校

開催日:令和5年10月22日(日)

参加者(主催者):川谷学区を元気にする会

もーもースクール参加者へ酪農に関するチラシや牛乳を配布。県産牛乳をPRし消費拡大に繋がるようイベントを実施した。当日はス

クール参加者、スタッフ合わせて100名超の人数が集まった。子供達実際に牛に触れたりバターを作ったことにより、牛乳に対する関心はかなり高まった。アンケートの結果からも、食べ物の大切さが伝わったと思われる。また本事業のスタッフは酪農と関係ない人達が多いため一般の大人にも酪農を理解してもらおう良い機会にもなった。



●愛知県畜産フェスタ(イベント主催者:愛知の畜産物消費促進推進協議会・愛知県)

●愛知県畜産総合センター(愛知県岡崎市)

開催日:令和5年10月14日(土)

参加者:愛知県酪農農業協同組合 酪農家・職員

毎年畜産フェスタに参加し来場する消費者にチラシを配布し酪農情勢を説明。今年の畜産フェスタは昨年よりも来場者が多く大変賑わいを見せた。
※全酪連会報11月号トピックスにも掲載

●第44回石川の農林漁業まつり(イベント主催者:石川の農林漁業まつり実行委員会)

●石川県産業展示館4号館(石川県金沢市)

開催日:令和5年10月21日(土)~22日(日)

参加者:石川県酪農農業協同組合

新型コロナウイルスに関する規制が緩和されたことで、イベントには2日間で約30,000人が来場。チラシやツール、展示パネル等を活用した酪農情勢の説明や、牛乳・乳製品の試飲・試食を通して、多くの一般来場者へ向けて石川県内の酪農協及び牛乳等について理解を深めて貰うことができた。



- 第44回 兵庫県民農林漁業祭
(イベント主催者:
兵庫県民農林漁業祭実行委員会)
- 兵庫県立明石公園内「千畳芝」
(兵庫県明石市)

開催日:令和5年10月14日(土)~15日(日)
参加者:兵庫県酪農青年部事務局・
兵庫県酪農農業協同組合

毎年開催のイベントで、健康ネットワーク検診会と一緒にイベント来場者400名を対象に超音波骨密度測定を行い、測定結果から検査士及び管理栄養士より改善指導を行っている。合わせて牛乳・乳製品の摂取及び消費を呼び掛けている。



- おかやまミルクフェア2023
(イベント主催者:岡山県酪農乳業協会・おかやま酪農業協同組合)
- 北長瀬未来ふれあい総合公園イベント広場(岡山県岡山市)

開催日:令和5年11月3日(金・祝)
参加者:おかやま酪農協女性部・青年部

ミルクフェア来場者に向け「安全・安心な国産牛乳を毎日飲んでください」と訴えながら、チラシ・保冷バックを配布。ブースでは、牛乳料理の試食、牛乳パック工作、牧場作業の紹介などを行った。多くの酪農家が参加することができたので消費者へ生産者の声を直接伝えることができ、酪農家の方々も良い経験となった。



- ゆめ花マルシェ
(イベント主催者:山口きらら博記念公園活性化協議会)
 - 山口きらら博記念公園(山口県山口市阿知須)
- 開催日:令和5年10月7日(土)~8日(日)
参加者:山口県酪農青年女性会議・山口県酪農乳業協会

- 下関市緑化祭
(イベント主催者:下関市)
 - オーヴィジョン海峡ゆめ広場(山口県下関市)
- 開催日:令和5年10月21日(土)~22日(日)
参加者:山口県酪農青年女性会議・山口県酪農乳業協会

イベント会場内にブースを出展(「MILK●JAPAN」ブース(出展ブース事務局:山口県酪農乳業協会)イベント来場者へ県内酪農・牛乳消費拡大へ関心を持ってもらうとともに、厳しい酪農情勢を知ってもらうきっかけを作れた。



株式会社高橋牧場
北海道中標津町

地域・仲間と助けあい将来に向かう若手経営者



北海道中標津町



▲ 高橋伸悟さん(右)と本会井崎職員(左)

この度ご紹介いたします株式会社高橋牧場（以下、高橋牧場）は、北海道東部の中標津町に位置しています。所属する中標津町農業協同組合（飯島浩代表理事組合長）は、生乳出荷戸数159戸、出荷乳量は156,492t（いずれも令和4年度末時点）となっています。中標津町は酪農が基幹産業であり、なんと「牛乳で乾杯条例」があるそうです。

今回お話しを伺ったのは高橋牧場の3代目経営者である高橋伸悟さんです。高橋牧場は伸悟さんのお祖父様が入植し蕎麦作りを始めたところから始まります。当初はつなぎ30〜40頭+蕎麦・芋兼業でしたが、平成15年に2代目であるお父様により130頭フリーストールパーラー、パラレルパーラーを新設したのを機に酪農専業となりました。さらに平成25年に60頭のフリー



▲ 育成牛舎外観

ストール牛舎を新設して現在の規模に至っています。伸悟さんは4兄弟の次男で、兄弟の中で牛舎にいることが一番多く、牛を見ることも好きだったので、小学生の頃から両親



▲ 今年一番草のTMR給与が開始 品質も良く乳量回復に期待

は将来伸悟さんに牧場を任せたいと
考えていました。また伸悟さんも働
くご両親を側で見ていて、大変だけ
どやりがいのある仕事だと子どもな
がらに感じていたそうです。高校卒
業後、根室の酪農家で3年間実習し、
22歳で実家に就農しました。

**TMRセンター
「恩恵を受ける分、責任を持って」**

現在は、経産牛およそ220頭(うち
乾乳牛30頭)、育成牛230頭を、

伸悟さんと弟の将乃さん、ほか従業
員5名で管理しています。草地は総
面積90haですが、地域のTMRセン
ターに加入しており、草地管理を含
めセンターに委託しています。

高橋牧場が設立当初より所属して
いる有限会社 中標津ファームサー
ビスは平成18年10月に稼働を開始し
たTMRセンターです。構成員は
18戸からなり、牧草地は1,200
ha、デントコーンは320haを管理
しています。軒数が多いことによる
粗飼料品質のばらつきがあるという
デメリットはあるものの、品質低下
時も代替購入飼料単価を抑えられる
ことや、年々土地の改良を進めるな
どセンター側でも改善を図っている
こと、何より収穫作業に追われずに
飼料代を抑えられることを大きなメ
リットと感じています。また、ミネ
ラルを添加することにより便がしま
り臭いも減るなど、各構成員の経営
基盤向上のため社長を中心に様々な
情報を集めて試してくれるセンター
には感謝しているそうです。その分、
センターの従業員による作業が間に
合わない時は、若手を中心に構成員
が出役する機会もあります。皆さん
協力的だそうです。また問題があれ



▲ 清潔な敷料が用意された哺育・育成舎

「プラスになります。」
昨年は残念ながら天候不順のため
粗飼料品質悪化が避けられず、今夏
の猛暑もあり牛へのダメージは大き
かったそう。今年の牧草の品質に期
待しています。

哺育管理は試行錯誤中

高橋牧場では二度の規模拡大に伴
い育成牛を地域の預託牧場に任せ
てきましたが、思ったように発育しな
い牛が戻ってくることもあり、伸悟
さんは将来牧場を支える育成牛を自
分の思い描いたように育てたいと考
えていました。そこで、弟の将乃さ
んの就農を機に、畜産クラスター事
業を利用して哺育・育成施設を新設
し、自家育成に切り替えました。現
在育成牛は将乃さんが責任を持って
管理しています。

「自分たちが立ち上げた会社です
から、自分たちが真剣に考えないと
共倒れになってしまいます。今はワ
ンマンで生き残れるような時代では
ないし、助け合いがあっても良いと
思います。それにこのような横のつ
ながりがたくさん情報をもたらさ
せてくれて、結果として自分の経営に
ば構成員がすぐに集まり話し合える
環境ができていくとのこと。」
自家育成に切り替えた当初、従
業員がバケツ哺乳を行ってしまし
たが、子牛が増えて全体の哺乳作
業時間が長くなったことから、カー
フレール哺乳ロボットを導入しまし
た。個体別に1日量を設定し、ロボッ
トが完全自動で哺乳を行ってくれる
のですが、伸悟さん曰く、「うまく
飼養管理と合えばこれだけで哺乳が



▲ ロボットによる哺乳管理

完了してとても便利。ただ現状は牛の空腹のタイミングが合わず、設定量をうまく飲ませることが難しいです。」とのこと。現在は後ほど紹介する和牛子牛もこのハッチに入れていますが、人が1日2回哺乳した時の方がいかにせん増体が良いとか。哺乳については試行錯誤の日々だそうです。自分の牧場に適合した哺乳プランが見つければ、自家育成の大きな手間である哺育管理がぐっ

と楽になると期待して取り組んでいます。

搾れない今は副産物に付加価値を

伸悟さんは、昨年から和牛受精卵による和牛生産に取り組んでいます。それまでは性別別精液によるホル雌と、F1の二択でした。順調に繁殖を行っていましたが、F1相場が軟調（相場が下がる傾向にあること）になっていること、その煽りを受けホル雌も過密になってきたことから、初生和牛出荷により副産物単価を上げたいと考えました。初めて和牛子牛が生まれたのは昨年6月。ホルスタインよりエネルギー要求量が多いという知識を持って、「下痢をさせずにどれだけ飲ませるか」を牛の状態を見ながらミルクの増給を試したところ、増体がうまくいったそうです。その他はホルスタイン子牛と同様の管理で、体を拭いてジャケツトを着せてヒータをかけ初乳を飲ませる。この管理で冬場でも死亡などはなく、また双子の小さい子牛が生まれた時も問題なかったそうです。逆にエネルギー不足が続くと弱ってしまうように感じているそうで、「個

体の大きさに合わせて哺乳量の上限を1日8〜10ℓの間を目安に、元気だったら下痢しても飲ませるよ」と話されていました。

受精卵は枝肉の成績が出ている血統をK・B・S株式会社（家畜人工授精所熊本ブリーディングサービス）より購入しています。和牛生産を始めて感じたことは、和牛は血統を意識しつつ、その増体を最大化させて発育の良い牛を作るのが大事だということです。特に最近相場が厳しいので、増体の良い健康な子牛を育てなければ利益が出ません。また、出荷までの増体が良くても購入先でもよく育ち最終的に良い肉にならないければ、リピーターにはなってもらえません。高橋牧場では購入先での離乳を考

え、多量のミルクを与えつつもスターターや粗飼料の食い込みを上げることを意識しています。

和牛生産を始めて1年半、和牛農家とも情報交換ができるようになった



▲ 奮闘中のカーフレール哺乳ロボット

り、どのような牛が求められるのかも分かってきました。これまでは初生牛として販売していましたが、今は素牛まで育てることも検討しています。本会担当者の井崎と素牛生産の計画も進めているそうで、「楽しみです!」と話してくださいました。また現在の厳しい酪農情勢下、地域でも和牛生産に取り組む酪農家は増えてきているとのこと。「ここにいるのは重要な雌牛なんです。」と見せていただいたのは優良な血統の和牛雌牛でした。知り合いの生産者から安く譲ってもらえたので、自家で採卵し、優良な和牛受精卵として地域の酪農家にも使ってもらい、助け合いたいと考えています。

繁殖管理の徹底と 病気の予防でコスト削減

高橋牧場は昨年計画乳量を下回ったこともあり、今年度の出荷乳量にはまだ余力があります。その一方で、飼料代が高騰しているため、淘汰基準を厳しく設定しています。特に繁殖については成績の悪い牛、周産期病を繰り返す牛は繁殖機器で管理して淘汰の対象とすることで手間と治療代の削減に努めています。以前は目視で主にお母様が繁殖の管理をされていましたが、頭数が増えて繁殖の成績が下がってきたことから、ファームノートカラー（繁殖管理装置）を導入しました。仲悟さんや従業員が牛の不調に気が付く前に通知が来ることが多く、早い対処が可能になるそうです。分娩後80日を目安に授精し、空胎日数が150日経過した牛は、乳量を見ながら淘汰の対象にします。また、どうしても空胎日数が長くなり、過肥状態



▲ 採卵予定の和牛雌牛

で分娩になりそうな牛は胎児の増体に伴い採食量が減ることが予想されるので、飼料の消化率を改善する添加剤を使用して、乾物摂取量が落ちないよう周産期の予防に努めます。「同じセンター構成員でも、繁殖管理によっては収益に差が出てしまう。それくらい繁殖管理は大切です。それに分娩事故や病気があると余計なコストと時間がかかる。獣医師を呼ぶことで日中の拘束時間が長くなるのが嫌だから、病気をしない牛を作りたいと思ったんです。遊べないと嫌だしね！」問題点を把握してひとつひとつ改善してきた結果、現在は獣医師に頼ることはほとんどなくなったそうです。

搾れる日が来たらチャレンジしたい

仲悟さんのお父様はご病気のため昨年ご逝去されました。ご両親が育ててきた牧場をこれからも守り、そして発展させていくのが仲悟さんの目標です。

「父親への恩返しも込めて、牧場を大きくしていきたいです。今は牧場の無駄を見直し、コスト削減や副産物収入で準備をして、今後また自由に搾れるようになったらその時には搾乳ロボットにチャレンジしてみたいです。機械化と効率化が進めば僕がいなくても牧場が回るようになるので、そしたら本州に牧場を持ちたい！本州の酪農家が北海道から購入した牛をいったん預かる中継地にしたら、もっと導入が進むと思うんです。戸数の減少は止められないけど、助け合えれば少し緩やかにはできるでしょう。…と大きな夢にチャレンジする前に、目下の課題は自分の牧場に良い牛を揃えていくことです。牛はほんと、答えが無いんです。でもそれが面白いです。」

仲悟さんは経営者としての厳しい一面はもちろんあるのですが、



▲ 初生黒毛和種として出荷予定「おいしくなれよ」と声をかけていました

こちらがいろいろと話したくなる温かい人柄で、そして話の折々に「助け合い」と言う言葉が出てくるなど地域や酪農仲間をととても大切にされていることが伺えました。また、このような情勢ですが、下を向かず新しいことに挑戦して生き活きと将来に向かっている姿がとても印象的でした。高橋牧場の今後ますますのご発展を願っております。この度は大変お忙しいところ、快く取材にご協力くださり誠にありがとうございました。

酪農部
発

全国農協乳業協会 「マーケティング研修」を開催しました

酪農部が事務局を担っている、全国農協乳業協会（会長 大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和5年10月25日(水)TKP東京駅前カンファレンスセンターを会場に「マーケティング研修」を開催いたしました。

毎年「商品開発研修」と題し、商品開発のノウハウ等について知識を深める内容で開催していましたが、令和5年度は「マーケティング」に目を向け、ボードゲームを使った体験型の研修を実施することと致しました。株式会社NEXERAが提供するマーケティング疑似体験プログラム「Marketing Town」を用いて、「市場調査」「仕入れ・販売戦略」「資金繰り」「収支実績管理」を学びました。「マーケティング戦略」の「3C分析（Customer（市場・顧客）、Competitor（競合）、Company（自社））」と「4P（Product（商品）、Price（価格）、Place（流通）、Promotion（販促））」について学んでいく中で、ボードゲーム上でマーケティング戦略を実践していくことをテーマに、16名の参加者が2名1組になり2年間の経営を疑似体験していきました。

冒頭、ゲームの解説があったものの、ルールや仕組みを理解することが難しい場面もありましたが、回数を重ね自分のチーム（会社）を黒字にするために、それぞれが戦略を考えてゲームを進めていきました。1期目に赤字になってしまったチームも、2期目には勉強した戦略を軸に期末での黒字化を全員が達成しました。

今回、「マーケティング研修」と題してはいましたが、このボードゲームは「資金繰り」「収支実績管理」といったことも考えながらゲームを進めていなければならぬので、受講生からは「商品価格」を下げた販売することや、利益があがらず収支が悪くなることや、固定費や広告費等もかなり収支に影響があるため、コスト意識を強く持てた等の意見も多くあがり、マーケティング戦略を学ぶだけでなく経験も得られたと感じます。

今年初めて実施した研修ではありましたが、管理職から現場職員までそれぞれに学びのある有意義な研修になったと感じています。（Y.A）

本研修会は、（一社）Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しております



酪農部
発

全国農協乳業協会 「販売担当者情報交換会」を開催しました

令和5年11月9日(木)新大阪ワシントンホテルプラザにて、「販売担当者情報交換会」を、会場参加30名(事務局含む)、WEB参加13名の参加を得て開催いたしました。新型コロナ禍も本情報交換会はWEBや、ハイブリット開催で継続して実施をしてきましたが、アフターコロナの折、大勢の参加者を得て闊達な情報交換が行われました。

毎年「学校給食用牛乳について」「販売状況について」「その他」を、事前アンケートに基づき、各社状況報告と相互での質問等を実施していきます。また、今回は情報提供として中央製乳(株)より「学校給食受注改革」と題して、令和5年度より供給先全校に対して今まで電話かFAXであった受注方法をオンラインに一本化した同社の取組を紹介いただきました。参加者からの関心も高いテーマのため、情報提供終了後、

運用方法や、導入までの学校への説明のやり方等も含めて、多くの質問が寄せられました。

その後、情報交換会の中では、昨今の飲用乳価改定に伴う製品価格の見直しが各社8月から実施され、その販売状況や販売構成比等について闊達な情報交換がなされました。値上げとともに、1ℓ成分無調整牛乳から小型商品や、低価格帯の白物乳飲料へシフトしている傾向があり、いかに1ℓ成分無調整牛乳の販売本数を伸ばしていくか等の課題について議論されました。

本会終了後に懇親会を開催し、さらなる情報交換また企業間連携の話等が盛り上がり、会員の相互連携に大きく寄与できたと実感しました。

今後も、全国農協乳業協会は会員企業の負託にこたえるべく、活動を実施してまいります。(Y.A)

本研修会は、(一社)Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しております



東京
支所発「チェアリング in MAESOU」にて
群馬県内酪農理解醸成活動！

暦の上でははや立冬となり、日ごとに日脚も短くなってまいりました。去る11月12日(日)、群馬県前橋市にある前橋市総合運動公園にて「チェアリング in MAESOU」が開催され、酪農理解醸成活動を行いました。広場のスペースにて牛乳配布、乳製品販売、特定非営利活動法人ぐんま里山学校で飼われているジャージー牛“ベルちゃん”展示ブースの設置を行い、バター作りや牧草ロールへのお絵かき、疑似牛を利用しての乳しぼり体験、ベルちゃんエサやり体験を実施しました。飼料展示ブースで利用した牛の飼料原料やベルちゃん用の飼料、配布用の牛乳・ミルメークについては関東生乳販連、赤城酪農業協同組合連合会様にご協力いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

ブース内では乳製品販売コーナーでは赤城酪産須藤牧場のチーズ、(株)ヘルシーミルクが販売する牛乳や

コーヒー牛乳、乳飲料などを販売しました。またスタンプラリーの景品として牛乳の配布も行い、多くの家族連れで賑わいました。ジャージー牛のベルちゃんは子供たちのみならず大人にも人気で、71組の親子がベルちゃんへのエサやりを体験しました。

今回で5回目の開催となる「チェアリング in MAESOU」は参加者が椅子を持参し自然公園の中でのんびり過ごすというイベントです。広場では気球体験や手作りバター体験のほか、ステージパフォーマンスやクラフトマーケット、キッチンカーも出店するので食事楽しみながら自然豊かな赤城山麓で一日過ごせるイベントとなっています。生乳生産が盛んな前橋市では地元の主産業として貢献していることを地域の方々や子供たちに知って頂けるいい機会になったのではないかと今回のイベントを通じて感じました。(Y.A)



▲ 会場の様子 バター作り体験
参加者は親子連れの姿が目立ちました



▲ 飼料についての展示ブースとベルちゃんエサやり体験の様子



▲ 気球で空中散歩



▲ 椅子など持参のんびり過ごす



▲ ベルちゃん大人気！



▲ 乳製品も販売しました！

名古屋
支所発中部酪青女
「令和5年度全体研修会」開催

令和5年10月16日(月)に富山県高岡市のクローバーファームでWEBによる視察研修を開催しました。今回はZOOMウェビナーで全国を繋ぎ、多くの方々に視察に参加して頂きました。

クローバーファームの青沼^{あおぬま あきら}光さんの案内で、哺育育成牛・乾乳牛・搾乳牛舎を見させて頂き、全国の視聴者からの質問に答えて頂きました。

青沼さんの実家は非農家ですが酪農に憧れ、平成27年にこの地で就農されました。最初は7頭から始まりましたが、今年新牛舎を建設し、現在は130頭を飼養されています。

厳しい酪農情勢の中の牛舎建設・増頭をされたほか、「富山県乳牛協会会長」や「交流牧場全国連絡会の理事」等も務めておられる大変行動力のある方です。

今回の視察では、全国の酪友が刺激を受けた研修になったことと思います。

今後も中部会議は様々な活動を行ってまいります。
(S.M)

YouTubeにて研修内容を公開中！

→ <https://youtu.be/yMYuHEe3aeE?si=PdJ3-0PalsjjFeQO>



▲ 視察牧場のクローバーファーム 青沼光さん



▲ 西尾委員長挨拶



▲ 視察風景

名古屋
支所発「東海ブロック酪政連協議会 令和5年度全体研修会」
開催

令和5年11月15日(水)全酪連名古屋支所大会議室(愛知県名古屋市)において「東海ブロック酪政連協議会 令和5年度全体研修会」が開催されました。

今回は(一社)中央酪農会議の菊池専務を講師とした「最近の酪農情勢について」と生活協同組合コープあいちの平光参与を講師とした「価格高騰の中、牛乳製品に対する消費者の思い、コープあいちの取組

み」の2つの演題の研修会でした。

菊池専務からは厳しい酪農業界の中での取組みを、平光専務からは値上げされた牛乳をどのように消費者に届けるか、消費者に対し酪農情勢の現状を知っていただく活動等をお話いただきました。

酪農業界からと消費者からの目線での研修会であり、とても有意義な研修会となりました。(S.M)



▲ 平光参与による研修



◀ 清水委員長挨拶

▼ 意見交換会



菊池専務による
研修 ▶



福岡
支所発「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」にて
酪農理解醸成!

11月4日(土)に、佐賀インターナショナルバルーンフェスタで、九州酪農青年女性会議(中村俊介委員長)が主催する理解醸成活動が行われました。

佐賀県佐賀市嘉瀬川河川敷で開催されるこのイベントはバルーン(熱気球)の国際的なフェスティバル(競技大会)です。16の国・地域から125機が参加するアジア最大級の規模を誇るイベントとなっており、コロナウイルス感染防止のため、近年は中止や無観客開催、国内選手のみ参加の縮小開催が続いていましたが、4年ぶりに海外選手も参加する本格開催となり、5日間の大会期間中の来場者数は90万7,000人にも及びました。

期間中は気温も高く、天候にも恵まれ、酪農家を中心に九州各県より約25名が集結し、活動に臨みました。また、一般社団法人Jミルクが実施する牛乳製品インバウンド等消費拡大事業とコラボし、

1,000セットのリーフレット・保冷バッグと1,200個のLL牛乳を配布しました。

イベントスペースで実施した九州産牛乳の試飲は「美味しい」、「もう一杯欲しいな」、「給食の牛乳の味だ!」といった声があがるほど大盛況で、用意した140ℓ牛乳が予定より早く無くなってしまいました。

等身大模擬牛の『クルミとクルクル』親子もイベント会場で大活躍、お母さん牛の『クルミ』による乳しぼり体験、仔牛の『クルクル』にミルクをあげる哺乳体験も、たくさんの人に参加していただきました。

飼料コーナーでは、普段見る機会の少ない「牛のご飯」に子どもから親御さんまで興味津々。手に取る、匂いを嗅ぐ、といった体験が行われました。

給食で慣れ親しんだ牛乳、大人になっても積極的に飲んでもらえるように、機会を設けることが重要だと感じました。(A.M)



▲ 期間中90万人が来場した!



▲ 牛乳たくさん飲んでください!



▲ 皆で日本の牛乳をPR!



▲ 九州の牛乳試飲イベント



▲ 哺乳体験を楽しむ子(牛さん可愛い~)

福岡
支所発

今年も「第49回ふるさとくるめ農業まつり」で牛乳乳製品消費拡大!

11月11日(土)～12日(日)、ふくおか県酪農業協同組合(中島代表理事組合長)がメンバーである、ふるさとくるめ農業まつり実行委員会主催の「第49回ふるさとくるめ農業まつり」が「いのちを育む大地と人のふれ愛」～がんばっとるばい!久留米ん農業～をテーマに久留米百年公園(福岡県久留米市)で開催されました。

寒さが増してきたもののコロナが5類に移行し、公園内は多くの来場者で賑わいました。ふくおか県酪協のブースでは模擬牛による搾乳やバター作り体験、子

牛の体重当てなどのイベントを実施し、久留米支所酪農女性部の皆さんがチラシや牛乳無料配布、アンケートなどによる理解醸成活動を行いました。

牛乳乳製品の直売テントでは、牛乳や牛肉、乳製品などを販売し行列のできる盛況ぶりで、毎年、全酪連もチーズを販売していますが、昨年の1.2倍を用意したチーズはまつりの終了を待たずに完売しました。「ここで毎年買っとる!」、「もう売り切れたの、残念…」など長年出店してきた蓄積を感じる農業まつりです。(T.S)



▲牛乳乳製品直売に長蛇の列



▲模擬牛での搾乳体験



▲全酪連もチーズを販売



▲体重測定を待つ子牛

福岡
支所発

九州生乳販売農業協同組合連合会 「ハッピーミルクフェスタin大分2023」を開催!

11月18日(土)、九州生乳販売農業協同組合連合会(中村隆馬代表理事会長)が主催する理解醸成イベント「ハッピーミルクフェスタin大分2023」が、大分駅前広場(大分市)にて開催されました。

8年ぶりに大分県で実施したイベントでは、生活者に対して日頃からの牛乳愛飲に感謝を伝え、安全・安心で新鮮で美味しい九州産牛乳の魅力を発信し、牛乳・乳製品が値上げされる中で変わりなくご支持してもらうように呼び掛けるため、大分県酪農青年女性会議(山本博文委員長)・大分酪農青年同志会(藤田敏治部長)の生産者や大分県酪農業協同組合(清末健一代表理事組合長)の職員が参加して様々な企画で消費者と触れ合いました。

当日の大分県内は、晩秋の嵐となり今シーズン一番の強い寒気が流れ込み山間部では初雪も観測される

中、会場ステージでは牛乳トークショーや牛乳クイズ大会、アイドルショー、舞鶴高校吹奏楽部の演奏などが行われ、各ブースでは搾乳・哺乳・飼料体験、牛乳無料試飲、食品企業コラボ、中央酪農会議 MILK ● JAPAN 活動、ぬり絵コーナーなど盛りだくさんの企画で多くの来場者が楽しみました。

また、会場周辺ではリーフレットやLL牛乳、シリアル食品などの無償配布を行い、用意した2,000セットは早々に配り終えました。

牛乳・乳製品の値上げにより消費の減少が心配される中、九州沖縄各県もそれぞれ消費拡大運動・理解醸成活動に取り組んでいます。生産者・乳業・関係団体が一体となりコツコツと生活者へ酪農乳業の必要性を理解してもらう事が未来につながる意義ある取り組みです。

(T.S)



◀ 牛乳飲んで
元気に過ごしてね!

▼ 牛乳トーク②
(右から大分酪農青年同志会:志賀さん、大分県酪青女:竹村さん、植山副委員長、山本委員長)



◀ 牛乳トーク①
(右から大分県酪協:清末組合長、九販連:稗島常務)



▲ 搾乳体験
コーナー



▲ 寒さの中で
舞鶴高校吹奏楽部の
熱い演奏!

◀ 飼料体験
コーナー、
九州酪青女:
中村委員長も
飛び入り



▲ 牛乳無料試飲は急遽HOTミルクに変更

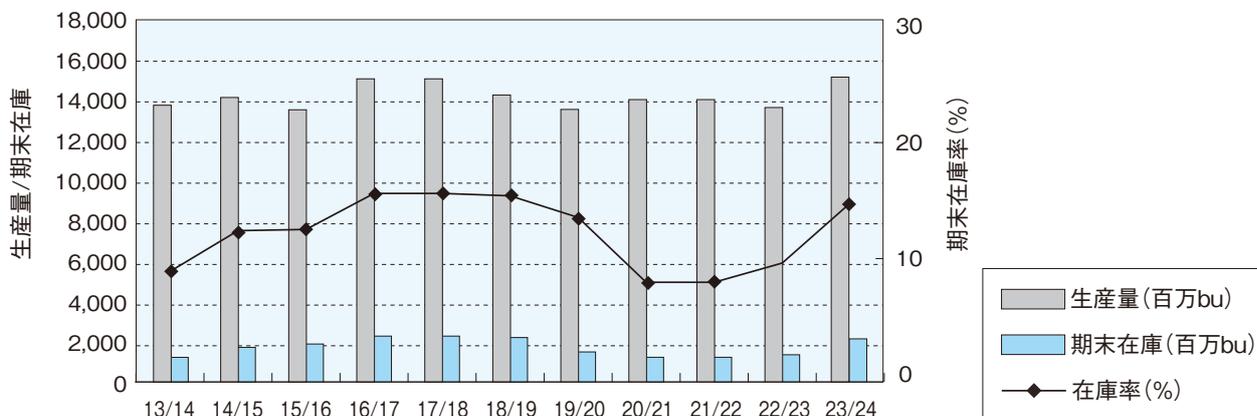


▲ 牛乳と親和性の高い食品企業も試食実施

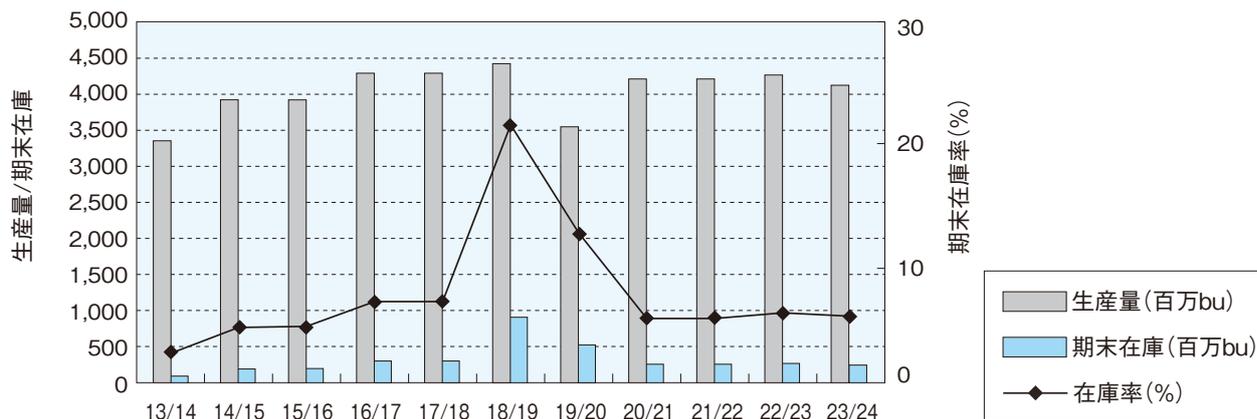


		22/23年産	23/24年産
11月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	88.6	94.9
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	173.4	174.9
	生 産 量 (ブッシェル)	137億1,500万	152億3,400万
	需 要 量 (ブッシェル)	137億6,900万	144億6,500万
	期末在庫 (ブッシェル)	13億6,100万	21億5,600万
	在 庫 率	9.88%	14.90%
トウモロコシ 相場動向	米国新穀の供給は収穫が順調に進捗しており、需要面では米国内需要は堅調にあるものの、中国向けの輸出が引き続き低調なため、シカゴ定期は上値が限定的に推移している。ブラジル産1期作の天候不順に伴う作付遅れに伴う減産懸念や、中国の経済動向、黒海、中東情勢等引き続き注視が必用。		
大豆粕相場動向	輸入大豆粕については南米の天候不順からシカゴ相場は堅調に推移している。また為替円安が進行していることも価格上昇の要因となっている。国産については外食需要の低迷から油の消費が落ちており、故に大豆粕の発生自体も落ちているため高値で推移している。		
槽糠類	【一般フスマ】 来年1月から小麦粉の値下げ改定が製粉メーカーから発表されたことにより12月は小麦粉の買い控えが発生すると思われ、昨年と比較し12月のふすま・末粉の発生が減少する見込み。また他槽糠類も強含みに推移していることからふすまの需要は引き続き強くなっている。		
	【グルテンフィード】 スターチメーカーの稼働率は前年比微減から並程度に推移している。10-12月期の価格改定で上昇したものの需要としては引き続き強い状況となっている。		
海上運賃	米国の経済指標が引き続き堅調に推移しており、金融引締めが長期化するとの見方から米国長期金利は堅調に推移している一方で、日銀の金融緩和政策の継続による日米金利差拡大を意識した円安ドル高基調で推移している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



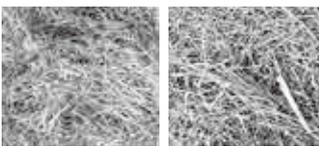
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和5年 11月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸航路は主要の乗継航路を含めて船積みは安定しています。今後、年末商戦に向けた貨物の増加により港湾混雑や労働者不足による作業効率の低下が懸念されています。太平洋北西部（PNW）では、降雪が原因で輸出業者の工場から港までを結ぶ道路の通行止めや、内陸からの貨車の遅延などスケジュールの遅れが多くなる時期のため動向には注視が必要です。また、一部の船会社は、以前より貨物の物量が低下しているため10月上旬で中国から出航する多くの船の運行を中止しています。運行の中止に加え、北米西海岸出し中国向けの輸出も活発化していることから米国内でのコンテナ不足も懸念されています。	
ビートパルプ	【米国産】 23-24年産ビートは一部の地域を除き収穫が終了し、製糖作業が進められています。収穫されたビートは播種の遅延により生産量の減少が懸念されていましたが、その後天候に恵まれたこともあり例年以上の豊作となりました。米国産ビートの需要については米国内からの動向に変化はなく、例年並みの在庫水準となっていますが、欧州への需要が上昇している状況です。	
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは4番刈の収穫作業が終了しています。23年産は例年に比べ春先の冷涼な気候により2～3週間遅れて収穫作業が開始されましたが、2番刈以降、天候に恵まれ収穫スケジュールの遅れを取り戻したことで多くの圃場で4番刈まで収穫されました。8月後半以降、定期的な降雨やカナダでの山火事の影響で日光が煙で遮られ通常以上に圃場での乾燥に時間を要したため、例年より3番刈、4番刈では上級品の発生が少なくなっています。産地相場については年間を通して上級品の発生が限られたため、米国内酪農家や他国向け需要も上昇しており、23年産の開始時と比較しても堅調に推移しています。	 <p>▲ 23年産ワシントン産アルファルファ 左:3番刈 中級品 右:4番刈 下級品</p>
	【オレゴン州】 主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは3番刈の収穫作業が終了しています。23年産は春先の不安定な気候の影響と1番刈収穫時の降雨の影響で生産に遅れが出たことから一部の圃場を除き多くの圃場で4番刈の収穫ができず、3番刈で23年産の生産を終えています。産地相場については引き続き、上級品を求める米国内馬糧向けや隣接州からの需要が衰えておらず、上級品の相場は2番刈比で堅調に推移しています。	 <p>23年産 ▶ オレゴン産 3番刈 アルファルファ 10月中旬撮影</p>
	【ネバダ州】 ネバダ州北部ウィナマッカでは3番刈の収穫作業が終了しています。3番刈の品質は8月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」や収穫期の不安定な気候により、上級品の発生は限定的となりました。一部発生した上級品についても米国内酪農家に高値で取引されており、産地相場は上昇しています。	
	【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在7番刈の収穫が終了し8番刈の収穫が行われています。産地では気温が冷涼になっていることから成分値は回復し始めています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、10月15日時点でのアルファルファの作付面積は132,315エーカー（前年同期は123,617エーカー）で前年同期比107%と増加しています。	
チモシー	【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは23年産の収穫作業が終了しています。23年産は作付面積減少に加え、収穫時期の不安定な天候により上級品の発生は限定的となりました。産地相場について変化はないものの、依然として高水準で推移しているため今後の動向には注視が必要です。	
	【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区及びでは、23年産の収穫作業が概ね終了しています。23年産は収穫期の降雨も少なく天候に恵まれたことから上級品から中級品中心の発生となりました。同州中部クレモナ地区でも、23年産の収穫作業が終了しています。山火事で煙による日照不足や乾燥に時間が掛かったことや早魃の影響で中級品中心の発生となり上級品の発生は限定的となっています。産地相場についてカナダ国内向け越冬用の牧草確保のため引き合いはあるものの、需要を見極める動きが続いています。	
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは2番刈の収穫作業が終了しています。23年産の産地相場が低迷したことから2番刈を行った生産農家は例年の20%～25%程度で3番刈まで進んだ圃場は限定的となっています。ハリケーンや降雨、湿度の影響により収穫されたものは過成長で茎が固いものや茶葉を多く含む低級品が発生しています。灌漑局の発表によると、10月15日時点での作付面積は4,150エーカー（前年同期は15,167エーカー）、前年同期比27%となっています。収穫も終盤となり前年比で作付面積は減少していますが、日本の需要に対しては輸出業者も旧穀在庫を抱えているため供給力に懸念はありません。	
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、5番刈の収穫作業が終盤を迎えています。4番刈の品質はハリケーンや降雨の影響で収穫作業が遅れ、刈遅れ品質が発生したものの、一部の圃場では降雨が灌漑用水に変わり適切な水入れとなったため良品も発生しました。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、10月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,061エーカー（前年同期22,270エーカー）となっており、前年同期比99%となっています。</p>	
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、バミューダハイの5番刈の収穫作業が開始されています。引き続きバミューダハイは米国内の馬糧向けの引き合いが堅調ですが、8月と9月の降雨により上級品の供給については限定的となっています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、10月15日時点の作付面積は70,167エーカー（前年同期66,788エーカー）と前年同期比105%の作付面積となっています。	
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、23年産のストローの生産が終了しています。産地では早魃の影響で生産量が減少したこともあり、引き続き韓国向けの需要は堅調に推移しています。	
オーツハイ	【西豪州産】 概ね収穫作業が終了しています。10月の生育状況は天候に恵まれたため見た目が綺麗な品質が多く発生しましたが、一部の圃場では生育期間中に安定した降雨がなく、土壌の養分が不足したことで成分値が不安定な品質も発生しています。	
	【東豪州産】 刈取り作業は後半を迎えており、10%程度の圃場で集草作業を終えています。10月に入り降雨があったことで生産量は例年並みまで回復しています。この降雨による品質懸念もなく、良品の発生が期待されています。	
	【南豪州産】 ほとんどの圃場で刈取りを終えており、30%程度の圃場で集草作業を終えています。10月に少雨がありましたが、新穀への影響は少なく、見た目、成分値が良好な品質の発生が期待されています。	
	市場については一部の東豪州で乾燥した気候が続いており、豪州内における放牧草不足の懸念から需要は増加しています。また、中国向けの輸出認可が更新されたことで輸出業者も積極的に新穀買付を開始しており今後の動向には引き続き注視が必要です。	

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み ▶……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	▶	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で91.8%、累計で94.3%、苫小牧管内月計で92.4%、累計で92.0%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となりますが、道内外での需要が回復し始めているため、やや強含みで推移するものと見込まれます。市場については、出場頭数が少ない地域のため購買者の入り方で大きく相場変動する可能性があります。庭先購買については、高能力牛の初妊牛の販売が多い地域であるため、能力情報を含め府県支所を通じて紹介いたしますので、よろしくお願いたします。
	初妊牛	45~55	▲	
	経産牛	35~45	▶	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▲	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で97.4%、累計で95.4%、中標津管内月計で99.0%、累計で95.8%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となります。都府県からの需要や、道内の搾乳素牛確保の動きが高まる中で、雌雄選別腹は資源不足感があり今後は、高値で推移するものと思われる。F1腹の価格についても、やや強含みで推移しておりますが、和牛受精卵移植腹の価格は横ばいか、やや弱含みとなっております。育成牛、経産牛価格とともに、初妊牛価格の上昇につられて、やや強含みで推移するものと思われる。
	初妊牛	45~55	▲	
	経産牛	40~50	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	27~37	▲	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で96.0%、累計で94.5%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となります。道内需要が高まっていることから相場はやや強含みで推移するものと見込まれます。資源については豊富にあるものの、雌雄選別腹の不足感が続いている状況で、相場も強くなっています。和牛受精卵移植腹については、やや人気が無く横這いに推移するものと思われる。また、経産牛については、即戦力は高値で推移するものの、全体では横這いであると思われる。育成牛は生まれ月によりますが、初妊牛の相場動向に同調しながらやや強含みで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	47~57	▲	
	経産牛	40~50	▶	
道北管内	育成牛(10-12月令)	18~28	▶	道北管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で95.1%、累計で95.0%、北見管内月計で96.8%、累計で94.6%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして2月下旬~3月中旬分娩中心の出回りとなります。春分娩も出回り始めるため、道内・都府県問わず需要はあると考えられます。相場は中クラス以上の牛において引き合いが強くなると見込まれ、やや強含みに推移すると予想されます。腹別の内容につきましては、F1腹の資源は十分にありますが、雌雄選別腹に関しては、資源不足から、高値で取引されると考えられます。和牛受精卵移植腹に関しては、受精卵の種雄牛により価格差が大きいです。経産牛に関しては、産次数の少ない牛については引き合いが強くなることを見込まれます。
	初妊牛	47~57	▲	
	経産牛	32~42	▶	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~35	▶	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は96.6%、累計で95.0%の実績となっております。道内では各地の気温がマイナスを記録するようになり、本格的に冬の季節を感じるようになってきました。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中心の分娩となりますが、来年度の生産の見通しも見えてきたことから道内では導入意欲が高まってくるものが予想されます。また猛暑の影響で春分娩も例年に比べ資源不足と見込まれ、特に都府県からの需要が今後増えてくるものが予想されます。各地域、徐々に相場も上がってきているため、春分娩が中心となる年明けから大きく跳ね上がる可能性もあります。このような状況のため導入計画がございましたらお早めのご注文をよろしくお願致します。今後、相場動向を注視しながら庭先購買中心で搾乳用素牛を供給していきたいと思っておりますのでよろしくお願致します。
	初妊牛	47~57	▲	
	経産牛	35~45	▶	

今月の表紙



今月の表紙は「第13回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「いのちの温かさ」(長崎県 松谷茜氏 撮影)です。

令和5年12月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 12月号 No.699

- 編集・発行人 岡田征雄
- 発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
 TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- 今年もあと1か月となり、新しい年が迫ってまいりました。全酪連会報も今年最終号となりました。ご愛読いただきました皆様、取材・寄稿等、発行にあたり多大なるご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。
- 全国各地では酪農に関する理解醸成活動を展開中です。気温の低下とともに牛乳・乳製品の消費は減退すると想定されますが、少しでも消費拡大に努めたいと思います。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

1月号
新年の御挨拶 / 全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 隈部洋氏 ... 2
農林水産省 畜産局長 渡邊洋一氏 ... 4
酪農とのかけはし / 愛しの牛乳パック 管理人 朝倉2号さん ... 6
監査室だより / ガバナンスの強化について ... 8
酪農業に対する理解醸成活動報告 2 ... 10
令和4年度 全酪連会員職員研修会 後編 ... 12
日本酪農見て歩紀 / 有限会社鈴木牧場 愛知県田原市 ... 16
酪農トピックス / 全国農協乳業協会「令和4年度営業向け交渉研修」の開催(酪農部)ほか ... 19
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年12月) ... 22
酪政連活動報告 ... 24
今月の表紙 / よいしょ! ... 25
今月のこどもギャラリー / 中島村立吉子川小学校 1年(東北) 仁科陽翔さん ... 26

2月号
若手後継者の本音 / 服部悠允さん・晨光さん ... 2
品質保証室だより / 令和4年度 食品事故情報 ... 4
酪農を支える人材育成事業 全酪アカデミー ... 6
酪農業に対する理解醸成活動報告 3 ... 8
日本酪農見て歩紀 / 合同会社榎本牧場 山口県国市錦町 ... 10
酪農トピックス / 代々木が乳々木に!?「らくのうマルシェ」が2か月連続開催!!(酪農部)ほか ... 14
広告 ... 19
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年1月) ... 20
人事異動 ... 22
今月の表紙 / たくさん食べて おおきくなーれ ... 23
今月のこどもギャラリー / 田村市立滝根小学校 6年(東北) 太田一稀さん ... 24

3月号
酪農とのかけはし / 北里大学 獣医学部 動物資源科学科 動物飼育管理学研究室 鍋西久准教授 ... 2
令和3年度 会員概況調査より ... 4
令和4年度 全酪連監事・役職員研修会 前編 ... 8
企画管理部だより / 令和4年度 決算に向けて ... 12
日本酪農見て歩紀 / 江藤牧場 福岡県嘉麻市 ... 16
酪農トピックス / 東北酪農専門団体協議会「令和5年度生産者乳価引き上げの要請活動」を実施(仙台)ほか ... 20
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年2月) ... 26
酪友フォーラム 2023 ご案内 ... 28
作品募集のお知らせ ... 29
酪農青年女性会議 春の地域イベントのご案内 ... 30
今月の表紙 / コミデ ... 31
今月のこどもギャラリー / 新潟県柏崎市北条小学校 4年(関甲信) 江部希唯さん ... 32

4月号
若手後継者の本音 / 近藤亨さん ... 2
第74年度(令和5年度)事業計画案 ... 4
令和4年度 全酪連監事・役職員研修会 後編 ... 8
酪農業に対する理解醸成活動報告 4 ... 12
日本酪農見て歩紀 / なかの牧場 新潟県新発田市 ... 15
酪農トピックス / 本会家庭用バター新ブランド「牛飼いのバター」発売開始のお知らせ(酪農部)ほか ... 18
全酪連2023年のニューフェイスが集結! ... 25
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年3月) ... 26
酪友フォーラム 2023 ご案内 ... 28
作品募集のお知らせ ... 29
酪政連活動報告 ... 30
今月の表紙 / お引越し ... 31
今月のこどもギャラリー / 清泉保育園 5歳(九州) 徳永ゆいさん ... 32

5月号
酪農とのかけはし / 愛媛県酪連 大洲SP 運送担当 班長 石田量敬さん ... 2
酪農部だより / 牛飼いのバター ... 4
日本酪農見て歩紀 / 坂本牧場 岩手県盛岡市 ... 6
般社団法人 全酪アカデミー 令和5年度入職式 ... 9
酪農トピックス / 北海道酪農青年女性会議「人生のどこかで酪農をしたい」を応援(札幌)ほか ... 10
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年4月) ... 17
酪友フォーラム 2023 ご案内 ... 19
作品募集のお知らせ ... 20
今月の表紙 / 牧場って楽しいね ... 21
今月のこどもギャラリー / 認定こども園北陽幼稚園・第2北陽保育園 4歳(北海道) 石田菜緒さん ... 22

6月号
若手後継者の本音 / 洞田貴雄大さん ... 2
酪友フォーラム2023 Challenge to the Next Stage ~酪友とともに50年 次の時代へ~の開催のご案内 ... 4
日本酪農見て歩紀 / 長澤牧場 北海道紋別市 ... 6
酪農トピックス / 「全酪ゴーダ(125g)」がリニューアルされました!(酪農部)ほか ... 9
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年5月) ... 12
畜産関係者の皆様へ 韓国で口蹄疫が発生しました ... 14
今月の表紙 / お見事!これならラップ作業もはかどります ... 15
酪農部だより / 全酪連ギフト商品について ... 16
酪友フォーラム 2023 ご案内 ... 19
今月のこどもギャラリー / 皆保育園 5歳(九州) 村上結愛さん ... 20

7月号
酪農とのかけはし / 「個人ヘルパー」 Supporting Clover 中野昭彦さん ... 2
ONEサポート 早川真紀さん ... 2
日本酪農見て歩紀 / 有限会社牧成舎 岐阜県飛騨市 ... 5
父の日に牛乳を贈ろう! 前編 ... 8
第49回 らくのこどもギャラリー 入賞作品紹介 ... 12
酪政連活動報告 ... 16
広告 ... 17
酪農トピックス / 練ヤマラクフーズ直売所が堂々オープン!(仙台)ほか ... 18
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年6月) ... 23
今月の表紙 / たくさん取れたよ ... 25
今月のこどもギャラリー / 託麻南小学校 2年(九州) 穴見祥太郎さん ... 26

8月号
第74年度(令和5年度)通常総会開催される 概要 ... 2
若手後継者の本音 / 加藤大介さん ... 2
酪友フォーラム2023 Challenge to the Next Stage ~酪友とともに50年 次の時代へ~ ... 6
購買生産指導部だより / DMSシステム 令和4年集計結果 ... 10
父の日に牛乳を贈ろう! 後編 ... 12
第13回 酪農いきいきフォトコンテスト 入賞作品紹介 ... 18
日本酪農見て歩紀 / 有限会社羽出木総合農場 岡山県久米郡久米南町 ... 19
酪農トピックス / 全国農協乳業協会「令和5年度定時総会」及び「役員会」の開催について(酪農部)ほか ... 22
人事異動 ... 29
広告 ... 30
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年7月) ... 31
今月の表紙 / モーモーちゃん、いつも美味しいお乳を出してくれて、ありがとう♥ ... 33
今月のこどもギャラリー / 岡崎市立豊富小学校 4年(中部) 平川亜門さん ... 34

9月号
酪農とのかけはし / 埼玉県立熊谷農業高等学校 内海康博先生 ... 2
第74年度(令和5年度)通常総会開催される 詳細報告 ... 4
日本酪農見て歩紀 / 西ノ村ファーム 鹿児島県始良郡湧水町 ... 7
酪農部だより / FSSC22000について ... 10
酪農トピックス / 俺、私、将来は酪農家になる!! 鹿児島県酪協が「酪農後継者キッズ交流会」を開催しました!(全酪アカデミー)ほか ... 12
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年8月) ... 20
広告 ... 22
今月の表紙 / おいしいかい? ... 23
今月のこどもギャラリー / 吹田市西山田小学校 4年(九州) 成松芽衣子さん ... 24

10月号
若手後継者の本音 / 永田正樹さん ... 2
全酪アカデミー卒業生 熊本で就農開始 ... 4
日本酪農見て歩紀 / 浜田牧場 神奈川県平塚市 ... 6
酪農トピックス / 全酪アカデミー研修生 ラジオで抱負を語る(全酪アカデミー)ほか ... 8
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年9月) ... 12
酪政連活動報告 ... 14
今月の表紙 / マニアスプレッター書道MILK ... 15
今月のこどもギャラリー / 下増田小学校 4年(東北) 阿部煌己さん ... 16

11月号
酪農とのかけはし / 酪農ヘルパー 安倍朋之さん ... 2
全国農協乳業協会 令和5年度 製造技術体験発表会・研修会 開催 ... 4
酪農業に対する理解醸成活動 新宿で開催 ... 6
日本酪農見て歩紀 / 雷控牧場 山形県高畠町 ... 9
酪農トピックス / 全国農協乳業協会 営業管理職向けコミュニケーション研修の開催について(酪農部)ほか ... 12
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年10月) ... 16
今月の表紙 / モーモーちゃん、いつも美味しいお乳を出してくれて、ありがとう♥ ... 18
今月のこどもギャラリー / 栗生小学校 1年(東北) 西牧桜さん ... 19
酪農部だより / 全酪連ギフト商品について ... 20

12月号
若手後継者の本音 / 荒井芳幸さん ... 2
監査室だより / 経営に役立つ内部監査を目指そう ... 4
全酪アカデミー卒業生 2組目が福島で就農スタート ... 6
酪農業に対する理解醸成活動報告1 ... 8
日本酪農見て歩紀 / 株式会社高橋牧場 北海道中標津町 ... 11
酪農トピックス / 全国農協乳業協会「マーケティング研修」を開催しました(酪農部)ほか ... 15
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年11月) ... 22
今月の表紙 / いのちの温かさ ... 24
総目次 ... 25
今月のこどもギャラリー / 下増田小学校 3年(東北) 阿部湊太さん ... 26

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



たたかう牛

下増田小学校 3年（東北） 阿部湊太

今月の入賞作品は…

下増田小学校 3年（東北）の阿部湊太さんの作品です。

牛さんが頭を突きつけて闘う場面が描かれた作品です。押し合っている牛さんの動きが見事に表現できています。広々とした牧場の空間も伝わってきます。「牛」という漢字一文字は、絵にアクセントを与えています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第49回らくのうこどもギャラリー」で全国138点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議